

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2023年度第1回理事会 議事録

日時：2023年4月22日(土) 16:15～17:30
場所：TKP 東京駅カンファレンスセンターホール 10A
WEB 同時開催

役員総数： 42名(理事 39名、監事 3名)

出席総数： 理事 34名

(理事)(現地) 佐藤之俊、阿部仁、伊藤仁、井上健、伊豫田明、岡本愛光、齋藤豪、澁木康雄、進伸幸、田畑務、中村直哉、廣岡保明、前田一郎、松浦祐介、三上芳喜、宮城悦子、森井英一、森谷卓也、横山正俊

(理事)(WEB) 有廣光司、植田政嗣、大平達夫、小笠原利忠、小田瑞恵、川名敬、田尻琢磨、生水真紀夫、都築豊徳、羽場礼次、藤井多久磨、山口倫、横山良仁、若狭朋子、渡利英道

出席総数： 監事 3名

(監事)(現地) 長村義之、土屋眞一

(監事)(WEB) 佐々木寛

(新規理事候補)(現地) 近内勝幸、豊田進司、森定徹

(新規理事候補)(WEB) 板持広明、下田将之

(膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ)(WEB) 平林健一

(総務委員会委員・新規理事候補)(WEB) 山下博

(総務委員会幹事)(現地) 星利良

(総務委員会幹事)(WEB) 片岡史夫、和田直樹

(制度審議委員会幹事)(WEB) 佐々木陽介

(国際交流員会幹事・新規理事候補)(WEB) 西野幸治

(中田公認会計士事務所)(WEB) 中田ちず子

本理事会は、定足数の半数以上(理事39名中34名出席)を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声は即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*佐藤 之俊 理事長、*齋藤 豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、*中村 直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、*森谷 卓也 副理事長[学術、国際交流、IAC]、*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、*岡本 愛光 副理事長[財務、渉外]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶（佐藤 之俊）

2023 年度第 1 回目の理事会となる。本学会の事業に関しては前年度最後の理事会でディスカッションを行った。本日は、2022 年度の事業報告や決算を含め本学会の全体の流れをレビューする大事な理事会でもある。6 月の総会を過ぎると、岡本次期理事長候補の下で新たな体制でスタートすることになる。本日は短い時間となるが、内容の濃い議論をお願いしたい。

*副理事長報告（齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光）

齋藤 豪 副理事長： 専門医制度関連については順調に経過している。2 年前より開始した細胞診精度管理アドバイザーに関しても順調に動き出し、再来年には最初のアドバイザーが誕生する目途がたった。

中村 直哉 副理事長： 昨年度は、検査士試験に関していくつかトラブルがあったが都築 豊徳 委員長や他の委員会委員長の先生方のご尽力でなんとかクリアできたと考えている。今後も、検査士の質と数の担保が重要と考えており、三上 芳喜 新委員長にはご尽力をお願いしたい。公益社団法人化 10 周年記念誌については、現在校正作業をおこなっており、順調に進んでいる。

森谷 卓也 副理事長： 学術担当として、ポストコロナの学術集会におけるハイブリッドや録画配信のあり方引き続き検討していく。国際交流や IAC においてもコロナの後を見据えて、本学会が発展し社会貢献を行うという意味で何をすべきかを新委員長の下で検討していきたい。

森井 英一 副理事長： できるだけ紙運用であったものを電子化して、迅速化を進めている。今回の評議員の審査も web ベースで実施することができた。次回以降の理事選挙に関しても電子化の道筋をつけたが、システム上の問題なども残されており引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

岡本 愛光 副理事長： 田畑 務 計理委員会委員長が精力的に頑張っていたことで、剰余金というような課題もあったがクリアし、健全な財務管理ができていると考えている。今後は、山下 博 新委員長のもとで引き続き健全な管理をお願いしたい。本日は、決算の審議もあり、よろしくをお願いしたい。

前回（2022 年度第 4 回理事会）議事録について

2022 年度第 4 回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2023年4月3日現在）

全会員数：12,963名

（正会員 5,655名、準会員 7,077名、名誉会員 37名、功労会員 180名、図書会員 14件）細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,296名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,020名、細胞診専門歯科医 120名）

FIAC：110名 MIAC：34名

細胞検査士数：8,057名（実数）（認定11,187名）

CT(IAC)：3,757名

物故会員（2023年1月28日～2023年4月3日）

正会員	江幡 秀光 殿	（（医）名保会江幡産婦人科医院）
	木村 博子 殿	（木村クリニック）
	宮崎 義彦 殿	（みやざきレディースクリニック）
準会員	水野 義己 殿	（中京クリニカルセンター）
	深井 光一郎 殿	（ピーシーエル品川病理細胞診センター）

黙禱

大会準備状況

第64回春期大会（藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日（金）～11日（日））、第62回秋期大会（横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日（土）～5日（日））、第65回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日（金）～9日（日））、第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日（土）～17日（日））、第66回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月27日（金）～29日（日））、第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場エリア、2025年11月29日（土）～30日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

審議事項

1. 2022年度事業報告案について（0.03_2022年度事業報告案）

審議結果⇒承認（佐藤 之俊 理事長より報告案の説明があり承認された。）

2. 2022年度決算案について（0.04_2022年度決算案）

審議結果⇒承認（田畑 務 計理委員会委員長および中田 ちず子 会計士より、決算案につき詳細の説明があり承認された。また、2022年度第4回理事会にて承認されたASC合同ワークショップ分の収支を追加した予算案に関し併せて提示があり、確認が行われた。）

3. 2023・2024年度委員会構成について（0.05_2023・2024年度委員会構成案）

審議結果⇒承認（岡本 理事長候補より各委員会委員長、担当理事について提示があり承認

された。)

4. 推薦理事一覧 (0.06_2023・2024 年度理事候補・副理事長候補・推薦理事候補・監事候補・推薦評議員候補)

審議結果⇒承認(岡本 理事長候補より理事候補・副理事長候補・推薦理事候補・監事候補・推薦評議員候補につき提示があり、承認された。)

5. 総会案内一式 (0.07_総会案内一式)

審議結果⇒承認 (各文面について確認が行われ、承認された。)

6. 専門医会そして細胞検査士会の会則の変更について (0.10_資料 1_23 年度第一回理事会 細胞診専門医会に関する施行細則 (再審議用) 改定対照表・0.10_資料 2_23 年度第一回理事会 細胞診検査士に関する施行細則 (再審議用) 改定対照表)

審議結果⇒承認 (専門医会・検査士会の予算・決算の承認は、総会にて行われる形に変更となる。)

質疑:

- ・阿部 仁 理事: 検査士会も専門医会と同様に変更させていただく。

7. 総会の完全対面での開催について

審議結果⇒承認 (今後は、完全対面での開催とする。)

質疑:

- ・佐藤 之俊 理事長: コロナが感染症法上 5 類という取り扱いになる中で、総会の開催をどのような形式とするかについてご意見をいただきたい。
- ・藤井 多久磨 理事: 可能であれば対面での実施を希望したい。
- ・前田 一郎 理事: 総会の参加総数は委任状で定数を超えることを前提にしているのか?
→これまでの web 配信での総会でも同様の取り扱いである。(佐藤 之俊 理事長)

8. 最優秀論文賞について (学術委員会 前田 一郎 委員長)

和文: 該当者なし (推薦論文は 1 報で論文賞としてのクオリティを十分に満たしていないという意見が 7 割であった。)

英文: 樋口 佳代子 先生 (11 報の論文が推薦され、評価者の 4 割が本論文を評価した。)

審議結果⇒承認

質疑:

- ・都築 豊徳 理事: 和文で該当者なしとなった理由は何か?
→論文の内容が新規性に欠けるという評価であった。(前田 一郎 委員長)
- ・三上 芳喜 理事: 和文は、症例報告が主で基本的に原著がないことが優秀論文賞に値するものがなかったと理解している。

- ・佐藤 之俊 理事長：最優秀論文賞結果について、事業報告案を修正して報告する。

報告事項

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料1】

〔申し送り事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. オンライン選挙に向けて、関連する施行細則内容を、2023・2024年度第2回理事候補選挙管理委員会で検討された原案（資料1）を基に審議して検討する。制度審議委員会に審議を依頼し、来年度に行われるオンライン選挙に備える。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔申し送り事項〕

学会ホームページ、マイページの改善

〔報告事項〕

1. ホームページへの「お知らせ」欄の掲載について（2023年2月24日以降）
学会全：2件
他学会：15件
その他：
 - ・2023年度IAC資格認定試験のご案内
 - ・2023年度サイトパソロジスト試験のご案内
2. ホームページの改修について
「基礎部分の修正（※以下00-05必須）」に関する説明と見積りを業者から送付があった。
STEP00：企画/設計/ディレクション
STEP01：ヒアリング（更新箇所の確認、運用方法の確認、課題の洗い出し）
STEP02：コンテンツの修正（HTMLの修正、テキストの修正、PDFの軽量化）
STEP03：デザインの修正（コントラスト、画像の差替え、CSSの修正）
STEP04：情報構造の修正（各要素の配置の変更、情報の整理、メニュー変更）
STEP05：テーマの変更（外観の変更、運用ルールの策定）
実際の改修には、業者からのヒアリング、相見積取得など必要となってくることから、事務局より今回の見積もりを委員へ送付し、それを基に改修原案を作成して次期委員会へ提案することを検討する方針とした。

3. 本 web 会議について

本 web 会議は日本臨床細胞学会ホームページ、マイページの更新作業を円滑に行うことを目的とし、作業が軌道に乗るまで定期的で開催するとして、2022 年 7 月より開始したが、委員の診療に影響のある時間帯での開催であり、ホームページ、マイページの更新作業は終了し、一定の役割は果たしたと判断して、本日にて定例での会議は終了することとした。

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2023 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集および選考を行う。
2. 2023 年度最優秀論文賞の選考。

〔審議事項〕

なし

計理委員会（委員長 田畑 務）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と 2 回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。
4. 2023 年 4 月 13 日(木)細胞学会事務局にて 2022 年度の決算を中心とした監査会を開催。

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 矢納 研二 代理 三上 芳喜）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼原稿を予定（編数未定）。
2. 春期大会、秋期大会開催中に 2 回、それ以外に 4 回の編集委員会を開催予定。
3. 編集委員会で独自に特集を企画し、その領域に合致する論文の投稿を呼びかける。
4. 第 64 回日本臨床細胞学会総会において、演題の一部を論文化する事業に関して試験運用を行って頂き、学術集会終了後、検証を行う。
5. 編集作業中の投稿論文（資料 1）

〔審議事項〕

なし

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 令和4年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 令和5年度細胞診専門医資格更新
3. 令和5年度細胞診専門医資格認定試験

2023年度病理専門医試験合否結果判明時期が、2023年12月末～2024年1月になる予定（専門医機構）とのことで、合格者に同年度（令和6年2月）の細胞診専門医試験受験資格を付与することを検討していた。しかし、専門医機構の理事会を経て正式に合格が発表される時期がかなり遅くなるということで、病理専門医試験合格者については次年度に受験していただく方向で議論している。

4. 細胞診精度管理アドバイザーについて

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ（齋藤豪 委員長）の意向を受けて、細胞診精度管理アドバイザー（子宮頸がん）の位置づけや認定条件について検討中。2023年度内には松浦 祐介 担当理事を中心に施行細則（案）を作成予定。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定）申請書提出締切：2023年4月30日（日）
2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）申請書提出締切：2023年3月31日（金）
3. 2022年度・年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設）年報提出締切：2021年3月31日（金）
4. 2023年度・内部精度管理（実地調査 4カ所）：内部精度管理WG（浦野誠WG長）のもとで2023年7～9月頃実施予定（コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定）
5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理WGのもとで、2024年度に実施予定（2年毎に実施）
6. 2023年度 年報会議、内部精度管理WG、外部精度管理WGを行う
7. 2022年度 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）を湊宏WG長中心に実施

した。

全認定施設 873 施設の内、参加：846 施設（96.9%）、不参加：27 施設（3.1%）で、結果および解答の詳細は 2023 年 1 月末に学会ホームページに掲載予定。

第 64 回日本臨床細胞学会総会（2023. 6）で問題の解説予定である。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 都築 豊徳）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2023 年度（第 56 回）細胞検査士資格認定試験

一次試験は 2023 年 10 月 28 日（土）に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施する予定。

二次試験は 2023 年 12 月 2 日（土）・3 日（日）に、名古屋会議室 プライムセントラルタワー名古屋駅前店にて実施する予定。

2024 年度の一次試験については会場を予約済みであるが、二次試験については現時点で予約しておらず次期委員長のもとで場所・日時を検討していただく。

2. 2023 年 CT（IAC）資格認定試験

2023 年 6 月 24 日（土）に実施する予定。試験会場 AP 浜松町を予定。学会ホームページに案内を掲載。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2023 年度細胞検査士資格更新作業

69-137、273-363、585-759、1061-1146、1558-1829、2458-2692、3458-3666、
4453-4725、5350-5618、6204-6369、6944-7208、7877-8158、8870-9151、
9880-10149

※2024 年 2～3 月に更新審査予定

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）【資料1～3】

〔申し送り事項〕

1. 2023年度 各種セミナー開催準備
検査士養成講習会 現地開催（講義+鏡検）
検査士教育セミナー 現地（講義）+Web開催による年一回開催への変更
検査士ワークショップ 現地開催（講義と鏡検）
診断学セミナー 現地4日（講義+鏡検）または 現地2日（鏡検）+Web開催（講義）
（診断学セミナー受講者アンケートでは現地2日（鏡検）+Web開催（講義）は評価が高いものの、費用がかさむという問題点があり、今後の検討が必要である。）
2. 第47回細胞診断学セミナーアンケート結果（資料3）
3. 4月11日 教育委員会開催（Web）

〔審議事項〕

なし

渉外・広報委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。
4. 学会ホームページのサイトポリシーを改定してく。
5. 日本医学会総会のポスターを作成した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2024年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
2. 今後の予定
2023年4月7日 内保連への提案書を提出した。
2023年4月中旬～5月中旬 内保連によるヒアリングの実施
2023年5月26日 内保連各委員会での最終調整締切

2023 年 6 月 3 日 内保連より提案書を厚労省に提出

2023 年 6 月中旬～7 月中旬 厚労省のヒアリング

3. 令和 6 年度診療報酬改定に際して以下の項目を中心に内保連、厚生労働省に提案していく予定である。

- ・ 細胞診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大（既記載項目）
- ・ 迅速細胞診（検査中の場合）、乳腺、甲状腺への適用拡大
- ・ 迅速細胞診（検査中の場合）、適応疾患の拡大（既記載項目）
- ・ 免疫染色、細胞診への適用拡大（既記載項目）
- ・ 感染対策加算（基本診療料 感染対策加算の要項の変更として提案）

他に主学会として以下を提案予定

- ・ 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
- ・ 細胞診精度管理料
- ・ 液状化検体細胞診加算の見直し

共同提案として以下を提案予定

- ・ 病理診断デジタル化加算（日本病理学会）
- ・ 連携病理診断診療情報提供料（日本病理学会）
- ・ 国際標準病理診断管理加算（日本病理学会）
- ・ 病理診断のための遺伝子変異検索（日本脳神経外科学会、日本病理学会）
- ・ 病理解剖料（日本病理学会）
- ・ 気道より採取される細胞検体における特殊染色加算（日本呼吸器内視鏡学会）
- ・ セルブロック法による病理診断（乳癌患者の胸水）（日本乳癌学会）
- ・ 超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法以外の気管支内視鏡下生検実施時の迅速細胞診（日本肺癌学会）

〔審議事項〕

なし

質疑：

- ・ 前田 一郎 理事：令和 6 年度診療報酬改定に際する提案の優先順位は？
→細胞診断料の見直しが既記載の一位である。新規項目の一位は、婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算である。国際標準病理診断管理加算については、日本病理学会からの提案となるため、当学会からの推薦にはなっていない。（若狭 朋子 委員長）

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2021 年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。
(締切：2023 年 2 月下旬)

2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。
3. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：
 - 1) 2023年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金5万円を上限とし、希望する地域学会は2023年3月末日までに、申請書を提出するように依頼を行った。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 榎本隆之 代理 西野 幸治）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援

第64回春期大会;2023年6月9日(金)～11日(日);名古屋
座長;Dr.Takayuki Enomoto, Dr.Margaret Cruickshank
演者;Dr.Ida Ismail-Pratt, Dr.Jatupol Srisomboon, Dr. Koum Kanal,
Dr. Jargalsaikhan Badarch, Dr. Hiroshi Nishio で開催予定

第62回秋期大会;2023年11月4日(土)～5日(日);福岡
→ 横山会長とテーマ・演者等検討中
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート

<韓国>
第20回日韓細胞診合同会議；
2023年9月2日(土) 群山市 Gunsan Saemangeum Convention Center にて開催予定

<タイ>
第28回日-タイカンファレンスを 2024/1/17-19 チェンマイでの開催を検討中

<中国>
2023年6月9-11日の武漢での第21回中国医学会細胞病理学全国大会に JSCC 会員の参加を歓迎するとの連絡あり。
3. IAC, ECC のサポート
4. カンボジアとの交流サポート
2023年秋期大会には1名招聘する予定
5. JHU-ASC-JACC joint cytopathology course の企画運営
2022年度の第4回理事会で2023年に第3回 JHU-ASC-JACC joint cytopathology course を JSCC の事業として開催することが承認され、第4回以降に関しては第3回の開催状況を振り返って改めて協議することが決定した。
第3回の場所：北里大学白金大村記念ホール・東医健保会館を仮予約
日時：2024年1月20日（土）～21日（日）

6. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子） 【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施
3. 2022年度第4回理事会にて承認された以下の項目の改定を行った。
定款・施行細則 p. 49「施設認定に関する施行細則」
内規・申合せ集 p. 50「学術集会のあり方・申し合わせ」
日本臨床細胞学会雑誌投稿規定（和文および英文）

〔審議事項〕

なし

【理事長直属委員会 報告】

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
2. 医療安全セミナー開催予定
第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
演題名：医療の質管理って何ですか？楽しく安全な医療提供のために
演者：藤田医科大学病院 医療の質管理室 室長 安田あゆ子先生
日時：6月10日（土）10時10分-11時10分（会期：2023年6月9日-11日）

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 春期大会および秋期大会における医療倫理セミナーについて、大会長と協議の上、企画

し開催する。

2. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会の医療倫理セミナーについて、大会長からご推薦いただいた藤田医科大学医学部生命倫理学の飯島祥彦先生にご講演をいただく予定である。
3. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会の医療倫理セミナーについて、大会長の横山正俊 先生と協議中である。
4. その他として、学会発表・論文投稿倫理指針の策定および掲載（日本臨床細胞学会細則等）、研究論文の倫理審査（追認）などについて、その都度 ML で検討、報告した。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関する事。
3. 利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会（委員長 小田 瑞恵）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会で行う。（諸事情で大会中に委員会が開催されない場合は、Web 会議などで代用する場合がある。）
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。
3. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。
 - ・「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ) (臨床試験主任研究者、青木 大輔 先生)
 - ・「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生) の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討 (管理責任者、佐藤 之俊 先生)

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会 (委員長 青木 大輔 代理 佐藤 之俊) 【資料 3 点】

〔申し送り事項〕

1. 次期執行部構成を IAC 事務局に連絡する。
2. IAC からの諸情報等について検討し対応する。
3. ICC2025 がイタリアのフィレンツェで 2025 年 5 月 11 日から 15 日に開催される。
(ICC2028 は、韓国で開催される方向で進んでいる。)

〔審議事項〕

なし

【ワーキンググループ 報告】

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料なし】

〔申し送り事項〕

- ・ 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』 (山梨県、千葉県柏市) の最終結果公表に向けた作業
- ・ 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』 (山梨県、千葉県柏市)

1. 進行状況：

本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータについて、医療機関に対する追跡調査、および一部のフォローできていなかった被験者に対する個別追跡調査を、研究事務局、データセンター (神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター)、EDC 管理担当 (メディカルエッジ)、関係医療機関と協力して実施した。2022 年 11 月には統計解析責任者・担当者の同席のもと、症例検討会を開催し、データの固定を完了した。さらに試験実施計画書に定められた最終解析の詳細を定めた統計解析計画書(3.0 版)を策定した。現在はこの統計解析計画書に則ったデータの最終解析と、論文化を進めている。本ワーキンググループに関してはこの解析と論文化が完了した時点での解散を計画している。

論文公表時には、研究開始当初よりホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

[審議事項]

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

【資料1】

[申し送り事項]

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証する。
3. 指針初版の英語版がPathobiology誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討する。（資料1）
4. 並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論している。
5. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証する。

[審議事項]

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ

（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

[申し送り事項]

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、追加検討に協力する。
2. 指針初版の英語版がPathobiology誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討している。

[審議事項]

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料1】

[申し送り事項]

1. 新たに提案した4段階の判定基準を普及するため、呼吸器細胞診報告様式に関する追加研究をまとめる。

2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 異型細胞に関する検討を進める。
4. WHO から、呼吸器細胞診の国際判定基準（パープルブック）が発刊となった。これを元に日本肺癌学会の細胞診判定基準の改定を行う予定である。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析した。
2. 成果を第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会で発表した。
3. 結果を論文発表する予定である。
4. 肺癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査
3. 「デジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）」合同委員会（日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本デジタルパソロジー研究会）

〔審議事項〕

なし

質疑：

前田 一郎 委員長：デジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）の策定に参画している。「細胞診のデジタル診断は可能か？」という内容で、CQ にはならないが近い将来に臨床的に重要な研究として FRQ (future research question) の形で掲載することは問題ないか？

→デジタルサイトロジーは医療機器としてクラスⅡの承認は受けていないので、現時点で実地臨床としては使用できないことを明確にし、将来的に制度整備が必要であることを記載する形であれば良いと思われる。（若狭 朋子 理事）

前田 一郎 委員長：婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算の保険収載を提案する中で、ガ

イドラインがなくてよいのか？

→細胞診自動判定装置はAIには含まれない。自動判定装置は、デジタルサイロロジーでもなくAIでもないという取り扱いになる。よって、細胞診自動判定装置はデジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）には含まれないということになる。

公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料 2 点】

〔申し送り事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループにより事業を推進する。記念誌は 2023 年度に完成する予定。また、SNS を中心に広報活動を行う。
2. 理事長直属のワーキンググループにより 3 つの事業を開始した。

その内容は

- 1) 記念講演会・祝賀会については、2024 年 4 月 28 日（日）に東京国際フォーラムにて開催することを確認した。さらに、本学会の歴史、10 周年に会を行う意義、招待者（学会等）、など今後については検討を続ける。
 - 2) 記念誌編纂については、印刷体で製作すること、2023 年をめどに完成することとし、執筆依頼を行った。（中村 直哉 副理事長：現在原稿を締め切り、校正作業中である。6 月頃の発刊および会員への送付を予定している。）
 - 3) 広報活動については、キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域（ゲノム診療を含めた）の柱で進めること、他学会等との連携（委員を含め）を行うこと、SNS 中心に発信すること、とした。（岡本 愛光 副理事長：若手医師・検査士で構成したメンバーで祝賀会だけでなく、効率的に幅広く学会をアピールするアイデアを検討している。）
3. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会中に会議を開催する予定。

〔審議事項〕

なし

膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 膵癌腹腔細胞診の各施設での判定区分や検体処理方法をアンケート調査する。
2. 診断一致率や診断基準をコンセンサス会議で検討する。
3. 抗凝固剤や溶血剤の細胞形態への影響を検討する。
4. 本ワーキンググループで検討した取り扱い方法が、次の膵癌取扱い規約に掲載されることが決定している。7 月に発刊予定である。

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 今後のスケジュール (0.08_今後のスケジュール)
2. 会員資格停止者について (0.02_資料1_会費滞納者一覧)
2年以上の会費滞納者の資格停止については、次回6月の理事会で審議される。
3. 会員資格復帰希望者について (0.02_資料2_会員資格復帰希望者)
前回の理事会以降は希望者なし
4. 2023・2024年度理事候補・推薦理事候補挨拶
板持 広明 先生、近内 勝幸 先生、豊田 進司 先生、森定 徹 先生、下田 将之 先生、山下 博 先生、若狭 朋子 先生より挨拶があった。

〔審議事項〕

1. 細胞診検査士会内への検診アドバイザーワーキンググループ立ち上げについて (阿部 仁 理事)
細胞診専門医会の指導の下で、検査士会内にも検診アドバイザーワーキンググループを立ち上げ、最終的には認定制度に進めることを目指したいと考えている。ワーキンググループ立ち上げに関し許可をいただきたい。
審議結果⇒継続審議 (次回理事会で審議へ)

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、佐藤 之俊 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2023年 6月 2日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

